

ジ・オブ・フィジシャンズから精神科、放射線科、病理が、コレジ・オブ・サージヨンプズから産婦人科が独立してそれぞれのロイアル・コレジをもち、またコレジ・オブ・ゼネラル・ブラクティシヨナが新設された。麻醉科はロイアル・コレジ・オブ・サージヨンプズ内にあるが、昨年コレジ・オブ・アナステテイスツを結成した。近い将来独立ロイアル・コレジが志向されている。

ロイアル・コレジズの活動は広い。しかし一六世紀にはじまる機能は一貫して試験機関である。近年医学校は地域医師の卒業生涯教育をも担当することになった。かつてロイアル・コレジズは医育面でも機能したが今日試験機関としての原点に返りつつある。試験合格者をもって構成するロイアル・コレジはイギリス近代社会における制度モデルと目されてきた。すなわち大学学位(ディグリ)と職能コレジの免許(ディプロマ)は肩書に併記されるが、イギリス固有の制度が徴表される。

今欧州大陸との関係が論をよぶ。ロイアル・コレジズにも徐々に動きがある。

(大阪医科大学)

佐賀県立病院(好生館)の御雇外国 人医学教師

高 安 伸 子

佐賀藩の医学教育は、文化四年(一八〇七)古賀教堂が藩主鍋島斉正公に医学教育の必要性を説き、天保五年(一八三四)に仮設の医学館が八幡小路に建てられたことにはじまる。その後、安政五年(一八五八)八月、佐賀市八幡小路に正式に医学校が設立され、蘭方医学を中心とした教育が行われた。設立当初の教師は、教導方差次に緒方洪庵の門人渋谷良次、指南役に宮田魯齋、浅田宗俊、指南役差次に高木玄堂、上村春庵、高木玄哲、医学寮係り合に横尾文吾が任じられた。同年十月に医学寮と改称、教導方に大庭雪齋、大石良英が任じられ、同年十二月に場所を片田江町に移し「好生館」との名称となった。

明治元年(一八六八)十一月に好生館に病院設立の議が起り、翌二年四月から小規模ながら病院の組織ができた。

その後、維新直後の社会的変動や同四年八月の廃藩置県により藩が佐賀県（後に伊万里県等と改称）となるなどの動揺から好生館も廃止・再開といった変化に巻き込まれた。同五年（一八七二）に県立好生館病院が開設、その御雇教師として米国人ヨックハンスが招かれた。以後、同十七年（一八八四）までの一二年間に渡り、ヨックハンス、スロン、シモンズ、デーニッツの四名の御雇教師が勤務したが、佐賀県立好生館病院及び四名の外人教師についての史料が、佐賀県立図書館に『明治行政資料』として残されており、従来の説と異なる事実が判明したので報告する。

佐賀県立好生館病院最初の御雇教師は、明治五年三月一日に着任したヨックハンス Jungmans, L.H. であるが、それ以前にオ・シモンズと契約が結ばれていたことが同四年十一月二十日の官省進達に書き残されている。この文書には、佐賀県立好生館病院の教師として赴任するはずであったオ・シモンズが、大学東校とも契約を結び大学東校に赴任してしまったため、横浜のヨックハンスという米国人医師を、オ・シモンズの代わりに教師として雇うことを許可して欲しい旨が書かれている。雇入許可願は許可され、ヨ

ックハンスは一年間の契約で横浜から佐賀へ赴任した。

明治六年二月二十九日にヨックハンスが満期退任、カナダ人医師スロン Sloane, Robert J. が赴任した。スロンは同年五月一日に一年間の契約で着任した。翌七年に佐賀の乱が勃発、その負傷者手当に当たるため、スロンの契約は当初の契約満期の明治七年四月三十日からさらに六ヵ月間延長された。また同年十一月には一年半、契約が延長されスロンは同九年四月三十日までの通算三年間、好生館の教師を務めた。この同九年の契約満期においても、佐賀県としてはスロンに教師を続けさせるつもりであったが、県自体が三瀨県と合併されるなどの変動に見舞われ、財政的にも高額な賃金を御雇教師に支払うことが困難となり、「遺憾ながら」契約を解消することとなった。

明治九年五月から翌十年五月までは前述のように、佐賀県自体が三瀨県となったり長崎県に吸収されるなどの理由により、御雇教師を招くことができなかった。同十年の五月になりオ・シモンズ Simmons, O. と契約が結ばれ、シモンズは六月二十四日に横浜から船で長崎に到着、七月一日に着任した。オ・シモンズとの契約は同十年五月一日か

ら翌十一年四月三十日までの一年間であったが、この契約も更新されO・シモンズは同十一年十二月三十一日まで病院に留まった。

O・シモンズが離任したあとに着任したのがデーニッツ Dönitz, Friedrich Karl Wilhelm で、同十二年八月五日に教師として着任し、同十七年までの五年間、好生館の教師を務めた。この佐賀県立好生館病院在任中のデーニッツについては、同十三年の記録として詳細な文書が佐賀県立図書館に残されている。デーニッツの日本においての実績は、様々な研究発表がなされているので、ここでは省略をさせていただく。

賀県における雇用事情の特殊性をこの報告により示したい。

(順天堂大学医学部医史学研究室)

以上のように、佐賀県においては幕末に医学館を設立、蘭学を中心とした医学教育を導入し、明治時代には御雇外国人教師によって近代的な医学教育が行われていたが、その後、外国人教師達の下で学んだ人材が育っていたにもかかわらず医学校は廃止され、昭和四十年代に無医大県を解消する政策が採られるまで、佐賀県に医科大学が存在しなかったということは非常に不思議といわざるを得ない。明治初期の医学教育制度が不安定な状態であったことや、佐